

大館能代空港脱炭素化推進計画(概要)



1. 基本的な事項

○空港の特徴

- ・大館能代空港は秋田県北秋田市に立地し、標高84mの河岸段丘地に整備された。
- ・2022年度の空港利用状況は、着陸回数1,061回、乗降客数15万人、貨物取扱量136トンとなっている。

○空港脱炭素化に向けた方針

- ・ターミナルビル等の空港施設の省エネ化、航空灯火のLED化、空港車両のEV・FCV化、太陽光発電設備などの再エネ導入などに取り組む。
- ・秋田空港と連携し再エネ電力の活用を目指す。

2. 温室効果ガスの排出量

区分		温室効果ガス排出量[t/年]	
		2013年	現状(2022年)
空港施設		871.3	650.6
空港車両		155.7	161.0
空港施設・車両計		1,027.0	811.7
(参考)	航空機	665.1	925.0
	空港アクセス	698.2	792.7

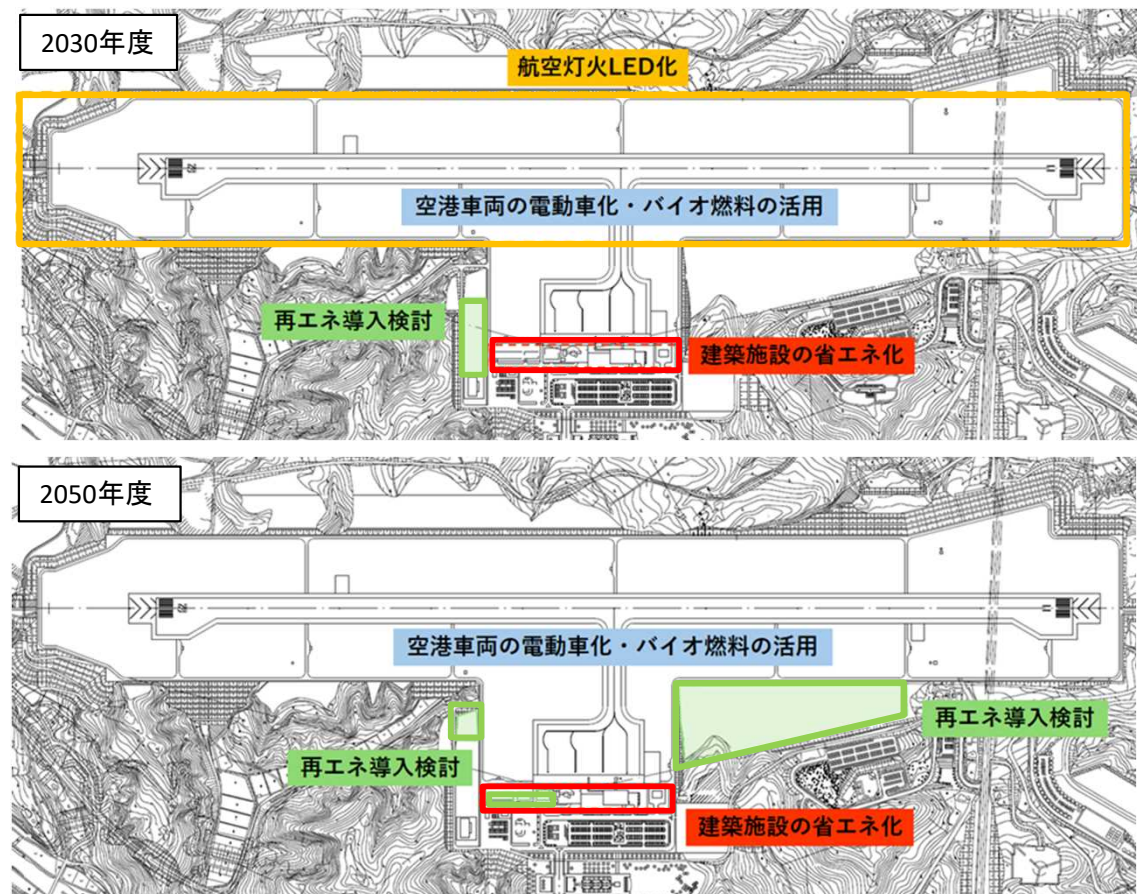
3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比46%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

4. 主な取組

2030年度: 空港施設の省エネ化、航空灯火のLED化、空港車両のEV・FCV化、太陽光発電の導入等に取り組む。

2050年度: 空港車両のEV・FCV化、太陽光発電や蓄電池を検討。



その他の取組

地域連携・レジリエンス: 災害時の蓄電池等の活用
意識醸成・啓発活動等: 空港関係者と連携し取組の推進や成果の確認